保健指導からみた諸問題：子どもの発達と母子関係の継続的考察

――1）9～10か月児の母親の育児意識――

研究第5部　望月武子
保健指導部　盛富美
河西恵子

Ⅰ　目的

愛育会保健指導部では、子どものパーソナリティーの円満な発達と調和的な母子関係の形成を願って、昭和55年以来、保健指導体制の中で、幼児前期までに3回の定期心理相談を実施している。そこで、子どもの発達や母子関係の様相及び問題を継続的な視点でとらえ、検討することにより、子どもの健全な発達にかかわる母子関係や養育のあり方を探ろうとした。

今回は、9～10か月時点で行った初回の心理相談の結果と、同時に実施している育児についてのアンケート調査から、乳児をもつ母親の育児意識の実態と問題点を把握し、その背景を明らかにする。そして、これらが今後の発達や母子関係にどのような影響を及ぼすか追跡的に検討する予定である。

Ⅱ　方法

心理相談では発達テストを行いながら母子の状態を観察し、母親から日常の生活を聴き、心配に応えて相談、助言指導を行っている。この際、育児についてのアンケート調査（内容は表2に表現を簡略化して示した）を実施している。来所時に調査用紙を渡し、3段階評定で母親自身が記入するものであり、来所者全員から回答を求めている。

この報告は、心理相談の記録とアンケート調査の結果を分析したものであり、調査対象は60年11月から62年3月までに心理相談を受けた1000名である。

調査対象の特性及び背景は表1に示した通りである。第1子が最も多く、母親の年齢は25歳～34歳が82%を占めており、大学卒以上の高学歴のものが45%で最も多いのが特長であって、専業主婦が多かった。

対象児の育児以前に、乳幼児の世話をしたり、身近で生活した経験のないものが40%を占めており、これを第1子に限ってみると69%が子どもとのふれあいの未経験者であった。

Ⅲ　結果

1　アンケート結果からみた育児意識

母親の育児の状況をアンケート結果からみたものが表2である。全般に肯定的な回答が過半数を占めている項目が多くなっていて、積極的、肯定的に育児を受け止めており、概して良い母子関係と育児環境が整えられてい

表1　対象の特性　N＝1000

子ども		%	母親		%
性別	男	52.0	年齢	20歳～	5.9
	女	48.0		25歳～	46.5
出生順	第1子	62.1		30歳～	36.0
	第2子	32.5		35歳～	11.6
	第3子	5.4	学歴	高校	19.7
出生時状況	問題なし	90.7		短大	35.0
	在胎37週未満	2.4		大学	43.6
	2500g 未満	5.5		大学院	1.2
	仮死	3.6		不明	0.5
	その他	0.9	職業	あり	16.1
				なし	83.9
家族形態	核家族	79.6	経験	あり	55.2
	祖父母同居	13.0		なし	40.2
	祖母のみ同居	6.1		不明	4.6
	祖父のみ同居	1.3			

るということができる。

このような傾向の中で、6）母親から誘いかけて遊び相手をする、10）遊び相手をすることが楽しく、楽しい遊びを見つけだしてやれる、ものは少なく、子どもの遊びに対する母親の認識や関わりは必ずしも十分ではなかった。

各項目間の関連を分析した結果、育児に不安や迷いがなく、育児を楽しく張りあいがあると受け止めているものは、子どもの要求に受容的であり（項目8、9、10）子どもの活動経験（4、5、6、7）にも肯定的な傾向が認められた。

また、項目1～3を子どもの状態、4～7を活動経験への対応、8～10を要求の受容、11～12を育児の姿勢、13～16を周囲の協力として、それぞれ得点間の相関係数により相互の関連を検討した。育児の姿勢と子どもの要求の受容の間では0.354 で関連が見られた。

2　育児に影響を及ぼす条件

母親の育児の状態を対象の特性などいくつかの条件と関連させて分析した。表3はそのうち有意差が認められた条件を示したものである。育児意識や子どもへの対応のしかたなどに最も影響を及ぼしているのは、育児以前に乳幼児に接した経験の有無と、子どもの出生順であった。

育児以前に乳幼児と接した経験のないものは、子どもを元気で活動的であると受けとめ（62%>50%）、甘えや要求に応じてやり（49%>41%）、夫は育児に協力的である（66%>57%）割合が高くなっていた。その反面で、子どもは機嫌がよいことが多い（66%<74%）、順調な発達をしている（64%<71%）と受けとめているものや、子どもに自由な活動の場を与え、子どもの気持や要求を汲みとってやれるもの（43%<64%）、育児は大変だが楽しく張りあいがあると感じているもの（57%<62%）は、いずれもその割合が低く、とくに、どのように相手をしたら良いか分からず、うまく遊んでやれない（8%>2%）、近所に話し相手がいない（20%>10%）などが多く、育児への不安や戸惑いが表われていた。

出生順による差がみられたのは、子どもは元気で活動的（60%>49%>41%）、夫は育児に協力的（69%>50%>44%）であるは、第1子が最もその割合が高く、2子、3子の順になり、子どもの気持や要求が汲みとってやれるのは逆に3子、2子、1子の順になっていた。

また、1子では2、3子に比べ子どもや育児のことを夫とよく話し合っているが、近所に話し相手がいる割合は少なく、2子は1子、3子に比べ自由な活動の場が与えられているが、甘えや要求に応じてもらうことは少なく、3子は戸外に出たり他の子との触れ合いが少なくなるなど、出生順により母親の対応は微妙に違っていて、子どものおかれている育児環境には差がみられた。

祖父母の同居については、意見の不一致、育児に不安や迷い、他の子との触れ合い、近所の話し相手の存在などで、むしろ否定的な傾向がみられた。これは母親が自分の考えで育児をしようとするとき、祖父母の存在が意見の不一致やそれによる迷いを生じさせたり、近所との触れあいを広げにくい条件になっていると考えることができるのではないだろうか。

3　心理相談の所見

心理相談で発達上の問題を疑われたものは43名(4.3%)であり、その内容は、全体的にやや遅れがみられるもの11名、運動発達の遅れ16名があり、他は外界への関心が希薄なもの、対人行動の発達の遅いものなどであった。

表2　育児意識　N＝1000

アンケート項目 ＼ 母の自己評価	少ない 否定	どちらともいえない	多い 肯定
1　子どもは機嫌よいことが多い	3.1%	26.3%	70.6%
2　元気で活動的である	13.7	30.7	55.5
3　順調に育っている	9.0	22.8	68.2
4　子どもの活動に許容的である	3.7	31.6	64.7
5　自由な活動の場がある	4.7	19.0	76.3
6　誘いかけて遊び相手をする	37.9	56.3	5.7
7　散歩や他の子とのふれあい	13.5	42.0	44.5
8　気持や要求が汲みとれる	1.9	42.1	56.0
9　甘えや要求に応じてやる	2.8	52.1	45.1
10　子どもと楽しく遊べる	4.4	73.6	22.0
11　育児は楽しく張りあいがある	3.8	36.3	59.9
12　育児に不安や迷いはない	3.9	72.1	24.0
13　夫は育児に協力的である	6.2	32.4	61.3
14　夫とよく話し合っている	2.9	31.6	65.5
15　家族の意見は一致している	4.7	50.4	44.9
16　近所に話し合える人がいる	14.1	18.0	67.9

表３　育児に影響を及ぼす条件　　*:P〈0.05　**:P〈0.01　***:P〈0.005

アンケート項目＼条件	子どもの性別	子どもの出生順	子どもに接した経験	祖父母の同居	母親の年齢	母親の学歴 **	母親の職業*
1　子どもは機嫌よい			有〉無　*			高〈短〈大	
2　元気で活動的	男〉女***	1〉2〉3***	有〈無***				
3　順調に育っている			有〉無***				
4　活動に許容的							
5　自由な活動の場		1〈2〉3***	有〉無　*				有〈無
6　母からの遊び相手							
7　他の子と触れ合い		1.2〉3　*		有〈無*			
8　気持、要求の理解		1〈2〈3***	有〉無***				
9　甘え、要求の受容		1〉2〈3***	有〈無　*				
10　楽しく遊べる			有〉無***				
11　育児は楽しい			有〉無　**			高〈短〉大	
12　育児の不安、迷い			有〉無　*	有〈無*		高〉短大	
13　夫は育児に協力的		1〉2〉3　*	有〈無***		20〉25〉30〉35*		
14　夫との話し合い		1〉2.3　**					
15　家族の意見の一致				有〈無**			
16　近所の話し相手		1〈2.3　**	有〉無***	有〈無**			

表４　心理相談所見と出生順　P〈0.01

出生順＼相談所見	問題なし N	%	発達上の問題 N	%	養育上の問題 N	%
第１子	558	90.1	20	3.2	49	7.9
第２子	276	85.4	18	5.6	40	12.4
第３子	42	79.2	5	9.4	9	17.0

表５　心理相談所見と出生時の問題　P〈0.001

出生時の問題＼相談所見	問題無し N	%	発達上の問題 N	%	養育上の問題 N	%
問題なし	795	88.6	30	3.3	90	10.0
在胎37週未満	17	70.8	7	29.2	2	8.3
2500g 未満	40	72.7	11	20.0	7	12.7
出生時仮死	35	97.2	1	2.8		
その他	7	77.8	2	22.2	1	11.1

表６　心理相談の所見とアンケートからみた育児

アンケート項目	心理相談所見	少ない否定 N	%	どちらともいえぬ N	%	多い肯定 N	%
2　元気で活動的である　**	問題なし	118	13.6	254	29.3	496	57.1
	発達上の問題	11	25.6	19	44.2	13	30.1
3　順調に育っている　***	問題なし	56	6.4	189	21.6	628	71.9
	発達上の問題	17	39.5	13	30.2	13	30.2
	養育上の問題	23	23.5	28	28.6	47	48.0
4　活動に許容的である　*	問題なし	28	3.2	275	31.5	571	65.3
	養育上の問題	9	9.2	34	34.7	55	56.1
5　自由な活動の場がある　*	問題なし	37	4.2	164	18.7	674	77.0
	養育上の問題	10	10.2	21	21.4	67	68.4
11　育児は楽しく張りあいがある　*	問題なし	28	3.2	310	35.6	533	61.2
	発達上の問題	4	9.3	16	37.2	23	53.5
	養育上の問題	8	8.2	39	39.8	51	52.0
12　育児に不安や迷いはない**	問題なし	30	3.4	622	71.1	223	25.5
	養育上の問題	9	9.4	73	76.0	14	14.6
13　夫は育児に協力的である　*	問題なし	48	5.5	288	33.1	533	61.3
	発達上の問題	5	11.6	12	27.9	26	60.5
	養育上の問題	12	12.2	25	25.5	61	62.2
15　家族の意見は一致　***	問題なし	34	3.9	436	50.1	400	46.0
	養育上の問題	13	13.4	50	51.5	34	35.1

また、養育上の問題を疑われたものは98名（9.8%）であり、この中では母子交流の不足が心配されたもの52名、不安や焦りなどで交流に調和を欠くもの30名が目立っていた。

心理相談の所見と対象の背景の関連を分析した結果、有意差が認められたものは、出生順位で１子に比べ２、３子に母子交流の不足など養育上の問題が多く、（表４）出生時の状況では、在胎37週未満、出生体重2500g 未満のものに発達上の問題が多くなっていた。（表５）

心理相談の所見とアンケート項目を関連させてみたものが表６である。心理相談で問題なしと判定されたものと比較し

て有意差のみられた項目のみを示した。問題なしの群に比べ発達上の問題が疑われたものでは、項目２、３、11 13、に否定的な反応が多く、養育上の問題を疑われたものでは項目３、４、５、11、12、13、15、に否定的な反応が多くなっていた。このような否定的反応は全体的にみればその割合は小さいものであるが、この中に発達や養育上の問題をもつものが見られるところから、健診や指導を考えるうえで見過ごしてはならない視点であるといえよう。

Ⅳ　要約

９～10か月時点で心理相談を受診した1000名について心理相談とアンケート調査から母親の育児意識と問題点をとらえた。

全般的には肯定的、積極的に育児を受けとめている割合が高く、良好な育児環境が整えられていた。

その中で、育児以前に乳幼児と接した経験のない母親は40％を占め、子どもへの対応に不安や戸惑いを感じている割合が高かった。

子どもの出生順により育児意識や親の対応には微妙な差がみられた。

心理相談の結果、発達上の問題4.3 ％、養育上の問題9.8 ％がみられた。発達上の問題は在胎37週未満、出生体重2500g 未満にその割合が多く、養育上の問題は２、３子に母子交渉の不足を心配されるものが多かった。

心理相談所見とアンケート調査との関連では、発達上の問題を疑われたものは項目２、３、11、13、に、養育上の問題を疑われたものは項目３、４、５、11、12、、13 15にそれぞれ否定的反応をした割合が高かった。

Problems from the viewpoint of the Health Guidance Continuous Research in Child Development and Maternal and Child Relationship

— 1 Child Rearing Feeling of Mothers Who Have 9-10 Months Old Children —

Takeko MOCHIZUKI
Fumi MORI, Keiko KAWANISHI

We considered about the child rearing feeling and problems of 1,000 mothers who have 9-10 months old children through the psychological guidance and the questionnair. In general, a large proportion of mothers' feeling of the child rearing was positive, and the satisfactory rearing environment was provided.
Of all mothers, 40 percents were those who had no experience of contact with infants before their child rearing, and many of those mothers felt somewhat anxiety and confusion toward their relationship with their children.
Subtle difference was found in their rearing feeling and relationship with their children in accordance with the birth order of children.
From the psychological viewpoints, developmental problem was shown by 4.3%, and child rearing problem by 9.8%. Chidren whose fetal age had been under 37 weeks and whose birth weight had been under 2500 grammes had more developmental problems, and children whose birth order were second or third had more rearing problems in which their maternal and child interactions were worried to be unsufficient.
AS for the association between the psychological viewpoint and questionnaire, developmental problems were more associated with negative responces to the item No. 2.3 11 and 13, and rearing problems with those to the item No. 3.4.5.11.12 and 13 of questionnaire.